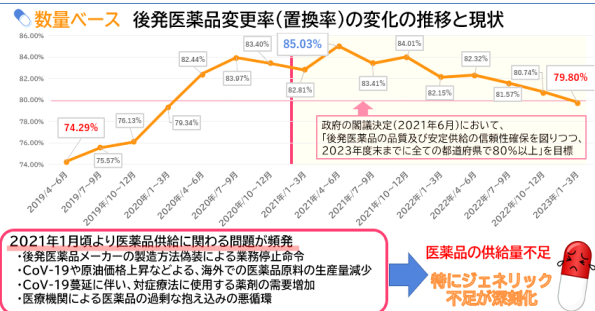


演題名	医薬品原価における後発医薬品変更率(置換率)の向上		
施設名	石巻健育会病院	(ふりがな) 発表者(職種)	ささき だいすけ 佐々木 大介 (薬剤師)
(ふりがな) チーム名	ジェネリック ^{いやくひんすいしん} 医薬品推進チーム		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取り組種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	経費削減を目標とし、医薬原価中で大きな割合をしめる医薬品原価に着目。当院は、地域包括・療養・回復期リハ病棟で構成。各病棟の医薬品使用金額は入院基本料に包括されるため、病棟での医薬品原価削減が重要。また、当院の理念である、確かな医療と質の高いケアの達成と十分量の医薬品確保も併せ、テーマを最小限のコストと最大限の治療効果を発揮できる医薬品の選定と確保とし、後発医薬品変更率(置換率)の向上を目標とした。		
改善の指標と その目標値	(指 標)地域包括・療養・回復期リハ病棟(3病棟の平均/月)の金額ベース 後発医薬品変更率(置換率) ※ ※理想医薬品原価(GE化可能な先発医薬品をすべてGE化)／実際の医薬品原価 × 100 (目標値)10月末までに95%以上にする		
実施した対策	①不安解消に向け、ジェネリック医薬品へ興味を持っていただくことを重要視した活動 ②AG(オーソライズドジェネリック)の認知拡大の為、メーカーのパンフレットを活用 ③採用医薬品変更周知(DIニュース、病棟担当薬剤師による声掛け) ④医薬品マスタの整備 ⑤薬事審議会・運営会議での経費削減に効果的な後発医薬品の選定と経過の確認 ⑥医薬品流通状況の情報収集と各種連携		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前)地域包括・療養・回復期リハ病棟(3病棟の平均/月) の金額ベース 後発医薬品変更率(置換率):87.1% (実施後)地域包括・療養・回復期リハ病棟(3病棟の平均/月) の金額ベース 後発医薬品変更率(置換率):96.1%		
歯止めと 標準化	(標準化)採用医薬品の見直しとジェネリック化の推進を継続し、採用医薬品の適正化を推進する 医薬品原価の推移の確認、結果の報告資料作成し病院全体へ共有 (教育)採用薬のジェネリック化のメリットについて、動画やパンフレットを用いて研修を行う (管理)電子カルテ内の医薬品マスタメンテナンスの保守、点検を行う		
活動の種類 ※複数選択可	②複数の職場が連携した活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動	チーム メンバー (職種)	1 太田 耕造 医師
活動の場 ※複数選択可	①診療部門 ③管理部門		2 武山 裕美子 看護師
活動期間	2023年4月 ～ 10月		3 菊池 美咲 看護師
リーダー名 (職種)	佐々木 大介 (薬剤師)		4 佐藤 和 看護師
活動回数	5 回		5 遠藤 千恵 看護師
			6 三浦 ふき子 看護師
			7 千葉 祐輔 医事
			8 三浦 智幸 薬剤師
			9 櫻井 朋子 薬剤師
			10 石川 友里恵 薬剤師
			11 佐藤 登志美 薬剤助手
			12 佐藤 麻衣亜 薬剤助手
			13 佐々木 大介 薬剤師

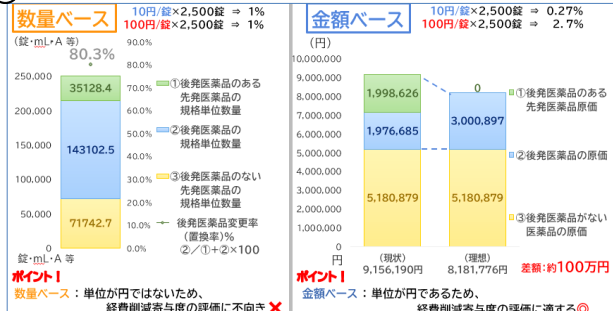
【現状把握】

『最小限のコストと最大限の治療効果を発揮できる医薬品の選定と確保』をテーマに、
現状の環境と数量ベース 後発医薬品変更率(置換率)の推移を把握

①



②



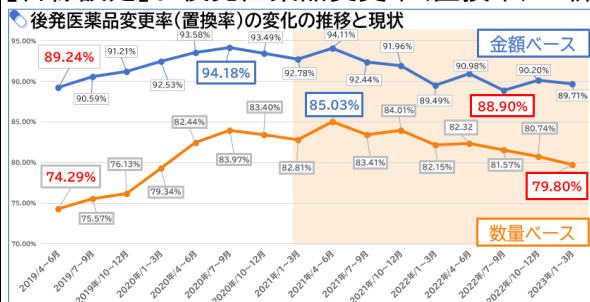
③

	2脳病棟 地域包括ケア病棟	3脳病棟 医療療養病棟	4脳病棟 回復期リハビリ病棟
現状 医薬品原価	1,049,942円	2,123,564円	1,032,229円
理想 医薬品原価	900,093円	1,847,312円	917,321円
金額ベース 後発医薬品変更率(置換率)	85.7%	87.0%	88.9%
特徴	・V ₂ 受容体拮抗薬 ・抗てんかん薬 ・DOAC(経口抗凝固薬) ・骨粗鬆症治療薬・PTH製剤 ⇒DOACはGE製剤無し ⇒DOACはGE製剤無し	・注射剤抗がん薬 ・TPN、PPN ・抗てんかん薬 ⇒注射剤抗がん薬は入手困難 PPN、TPNはGE製剤無し	・V ₂ 受容体拮抗薬 ・抗てんかん薬 ・DOAC(経口抗凝固薬) ・骨粗鬆症治療薬・PTH製剤 ⇒DOACはGE製剤無し

・医薬品原価の削減 ためには、地域包括・療養・回復期リハ病棟 での使用医薬品金額が入院基本料に包括となるため、各病棟の金額ベース 後発医薬品変更率(置換率)UPが重要

- ①数量ベース 後発医薬品変更率:国が定める指標で、後発医薬品の使用量促進状況を示し、目標値は80%以上。2021年1月の後発医薬品メーカーによる不祥事境に、多数のジェネリック医薬品供給量激減、後発医薬品変更率も最大値の85.03%から79.80%まで低下。その他にも様々な問題が頻発し、後発医薬品、先発医薬品を問わず供給量不足が長期間継続中。
- ②数量ベース 変更率は経費削減の指標として不向きな為、新たに金額ベースの指標を作成し、検討。
- ③今回のテーマでは各病棟での医薬品原価の削減が最重要。各病棟の特徴をふまえたジェネリック化医薬品の選定とジェネリック化後の医薬品在庫を十分量確保する事も必要。

【目標設定】後発医薬品変更率(置換率)の新指標(金額ベース)を目標値として設定



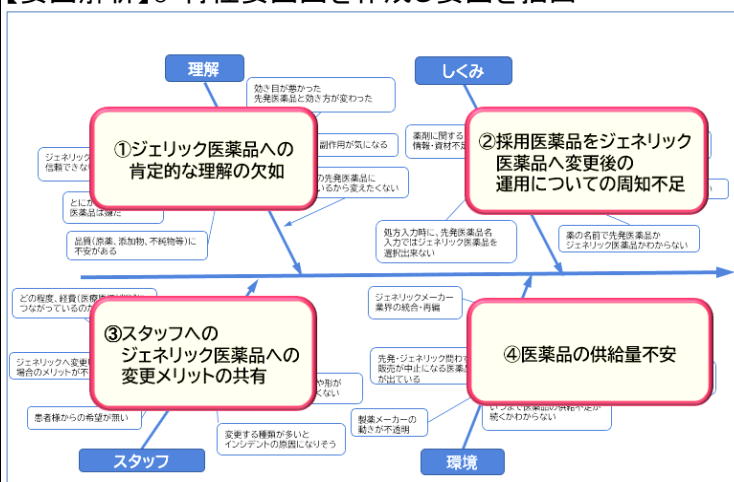
いつまでに	2023年10月末までに
何を	地域包括・療養・回復期リハ病棟(3病棟の平均)の 金額ベース 後発医薬品変更率(置換率)を
どうする	87.1%(3病棟の平均) ⇒ 95.0%以上にする 過去の実績(最高値:94.18%)、新規発売予定のジェネリック製剤、ジェネリック化対象医薬品の市場流通状況を分析し、目標値を設定。

【指標と目標値の設定】

指標：金額ベース 後発医薬品変更率(置換率)

＝理想医薬品原価(GE化可能な先発医薬品をすべてGE化) / 実際の医薬品原価 × 100
を今回テーマの指標として活動に取り組む事とした

【要因解析】特性要因図を作成し要因を抽出



なぜ、採用医薬品の積極的な後発医薬品変更が進まないのか

【特性要因図より】
採用医薬品の積極的な
後発医薬品変更が進まない
要因について

- 看護師へのアンケート調査
 - 患者様への聞き取り調査
- を行い情報収集



「理解」
「しくみ」
「スタッフ」
「環境」
の4つの視点から解析

その結果、4つの重要要因が抽出

重要要因の検証—4つの重要要因について「真の要因」であるか検証

重要要因	検証方法	結果から分かったこと	判定
① ジェネリック医薬品への肯定的な理解の欠如	・アンケート調査 ・聞き取り調査	・品質(原薬、添加物、不純物)への不安 ・一連の不祥事の報道によるジェネリックメーカーへの不信感 ・ジェネリック医薬品への変更による効き目の変化が気になる →一部の患者やスタッフより、ジェネリック医薬品の有効性と安全性に対しての不安の声	○
② 採用医薬品をジェネリック医薬品へ変更時の運用体制の周知不足	・アンケート調査 ・聞き取り調査 ・実態調査	・ジェネリック医薬品の名前が覚えられない ・採用医薬品変更開始のタイミングがわかりにくい ・処方入力時に、先発医薬品名で対象ジェネリック医薬品を検索できない →採用医薬品変更時の運用体制が十分ではなかった	○
③ スタッフへのジェネリック医薬品へ変更のメリットの共有	・アンケート調査 ・聞き取り調査	・患者様からジェネリック医薬品の希望を聞いたことが無い ・先発医薬品と名前、形、色が異なるので、振っていくない ・どの程度、経費(医療費)削減に繋がっているかわからない →ジェネリック医薬品への変更による具体的なメリットが、スタッフに共有されていなかった	○
④ 医薬品の供給量不安	・アンケート調査 ・聞き取り調査 ・実態調査	・ジェネリック医薬品を中心とした医薬品の供給不足 ・生産増産の情報はあるが、実質的な製薬メーカーの医薬品供給量の変化が不透明 ・世界情勢やコロナ禍により、先発医薬品、ジェネリック医薬品を問わず、医薬品の販売中止や供給制限の頻発 →医薬品安定供給への懸念	○

- ①ジェネリック医薬品への肯定的な理解の欠如
- ②採用医薬品ジェネリック化時の運用周知不足
- ③ジェネリック医薬品へ変更のメリットの共有
- ④医薬品の供給不安

以上の4つの重要要因を「真の要因」と判定



重要要因の検証では、
有効性や安全性、安定供給に対しての不安
後発医薬品に対しての
ネガティブなイメージが抽出された。

【対策の立案と実施】真の要因に対し、7つの対策を立案

採用医薬品のジェネリック化推進の為に	重要要因	一次対策	二次対策	具体策	重要性	実現性	効果	点数	採否	順番
	ジェネリック医薬品への肯定的な理解の欠如	ジェネリック医薬品について肯定的な理解を得る	患者様、病院スタッフにジェネリック医薬品に興味を持ってもらえる情報提供と薬剤の選定	ジェネリック医薬品の安心使用のための情報提供活動 AG(オーソライズドジェネリック)製剤の紹介、採用	○	○	○	15	採	1
	採用医薬品をジェネリック医薬品へ変更時の運用体制の周知不足	採用医薬品をジェネリック医薬品へ変更時の運用体制の周知を促す	採用医薬品をジェネリック医薬品へ変更時にわかりやすく周知できる運用方法の策定	DIニュースによる採用医薬品変更の周知(開始時期等)と病棟担当薬剤師による声掛け 医薬品マスタ整備	○	○	○	15	採	2
	スタッフへのジェネリック医薬品へ変更のメリットの共有が来ていない	スタッフへのジェネリック医薬品へ変更のメリットの共有を図る	ジェネリック医薬品へ変更のメリットの情報提供と理解の確認	DIニュースによる採用医薬品変更の周知(価格差等) 薬事審議会にて医薬品原価削減に効果の大きい薬剤を優先した採用薬変更の提案と運営会議での状況報告	○	○	○	15	採	3
	医薬品の供給量不安	医薬品の供給量不安への現状理解	変更後の医薬品確保のための、情報(製薬メーカー、医薬品卸)を考慮した上での、採用医薬品の選定	製薬メーカー、医薬品卸担当者との連携を通じ、採用医薬品の市場での流通状況を心まての選択	○	○	△	13	採	4

対策内容は、後発医薬品の肯定的なイメージの情報発信、対象医薬品の選定、管理を重要視

- ① 不安解消に向け、ジェネリック医薬品へ興味を持っていただくことを重要視した活
- ② AG(オーソライズドジェネリック)の認知拡大へ、メーカーのパフレットを活用



提供元 JGA × 第一三共エスファ株式会社

提供元 第一三共エスファ株式会社

ジェネリック医薬品やAG(オーソライズドジェネリック)製剤等を正しく、楽しく理解できるコンテンツを利用し、ジェネリック医薬品への肯定的イメージの情報発信

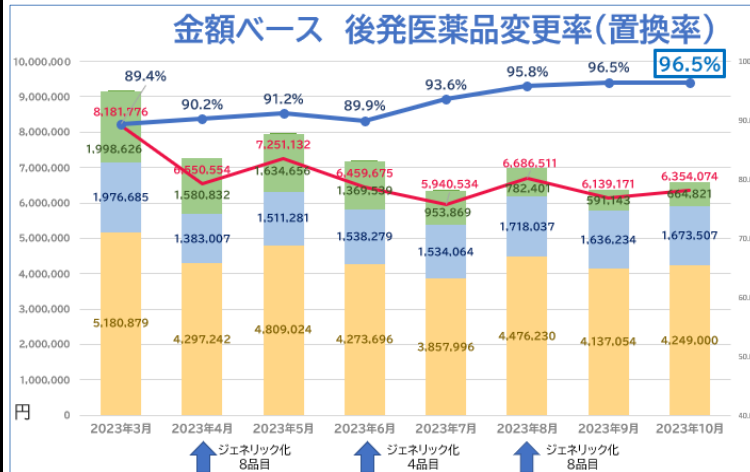
- ③ DIニュース(採用医薬品変更周知)
- ⑤ 病棟担当薬剤師による声掛け

採用医薬品のジェネリック化の周知活動

- ④ 医薬品マスタの整備
- ⑥ 薬事審議会・運営会議
経費削減に効果的な後発医薬品の選定
- ⑦ 医薬品流通状況の情報収集と各種連携

医薬品の情報収集・選定・管理

【効果の確認】有形効果: 病棟 & 外来診療の総医薬品原価



2023年3月～10月活動結果。
病棟 & 外来診療: 総医薬品原価のグラフ
棒グラフ: 医薬品分類

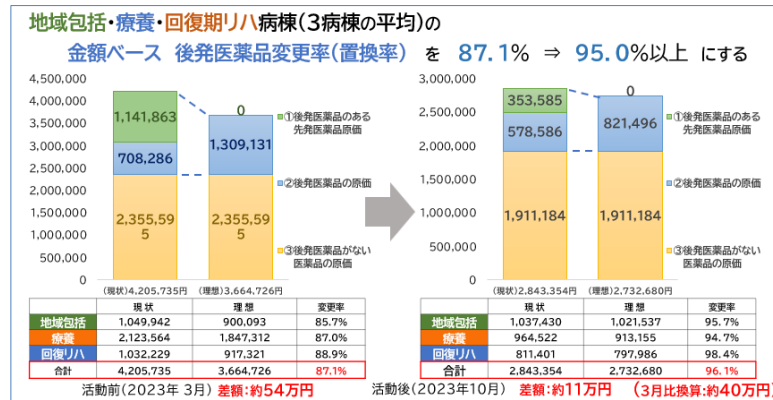
■ 後発医薬品のある先発医薬品原価
■ 後発医薬品原価
■ 後発医薬品のない先発医薬品原価

折れ線グラフ
■ (理想) 医薬品原価
■ 後発医薬品変更率(置換率)

活動後のグラフの変化

■ 後発医薬品のある先発医薬品原価
⇒ ジェネリック化により徐々に減少
■ (理想) 医薬品原価
⇒ 現状医薬品原価: 棒グラフ頂点と近似に
■ 後発医薬品変更率(置換率)
⇒ **最大値: 96.5%まで上昇**

【効果の確認】有形効果: 地域包括・療養・回復期リハ病棟の医薬品原価



目標達成

96.1%

2023年3月時(87.1%)と比較すると
29万円/月の医薬品原価削減した計算

2023年4月～10月の期間で
約126万円の
医薬品原価削減効果

【最終結果】地域包括・療養・回復期リハ病棟の医薬品原価

活動前の3月(左のグラフ)と活動後の10月(右のグラフ)を比較

3月時点、(3病棟平均)の金額ベース 後発医薬品変更率: 87.1%、理想金額との差額: 54万円

10月では、(3病棟平均)の金額ベース 後発医薬品変更率: 96.1%、理想金額との差額: 11万円 まで削減

3月の後発医薬品変更率実績で10月分医薬品原価と理想医薬品原価の差額を算出すると約40万円

⇒ 10月の単月のみで、約29万円の削減効果

4月から10月の期間のトータルでは、約126万円の医薬品原価の削減効果

【効果の確認】無形効果

- ジェネリック化への活動の理解やAG製剤の認知により、「安心してジェネリック医薬品を服用できる」「患者様へのジェネリック医薬品の使用にストレスが減った」
- 外来患者様から、「支払い料金が安くなって、うれしい」

などの声

病院スタッフや患者様から後発医薬品変更に対して肯定的なコメントを頂く機会が増加

波及効果

- 先発医薬品と同一成分へのジェネリック化だけではなく、異なる成分のより治療効果の高いジェネリック医薬品へ採用変更
- ジェネリック化の際、品質、識別のしやすさ、保管上の扱いやすさ、ボトル製剤(バラ錠)の有無も考慮し選定した結果、業務効率改善
- 電子カルテの医薬品マスタメンテナンス運用方法の最適化

『最小限のコストと最大限の治療効果を
発揮できる医薬品の選定と確保』
を兼ねた活動成果を達成

【標準化と管理の定着】

実施項目 (WHAT)	誰が (WHO)	いつ (WHEN)	どこで (WHERE)	なぜ (WHY)	どのように (HOW)
採用医薬品の見直しとジェネリック化推進継続	薬剤科 科長 薬剤科	毎月	薬事審議会	最小限のコストで最大限の治療効果を目指す	採用医薬品の適正化を推進する
医薬品原価の推移の確認	薬剤科 科長	毎月	運営会議	医薬品原価削減の為	結果報告資料作成 病院全体へ共有
採用薬のジェネリック化のメリットの確認	薬剤科 科長 薬剤科 看護部副長 看護部主任	年1回	部署 病棟	ジェネリック医薬品への肯定的な理解を深める	動画やパンフレットを用いて、研修を行う
電子カルテ 医薬品マスタのメンテナンス状況を	薬剤科 科長 薬剤科	随時	薬剤科	採用医薬品変更によるインシデントの発生を防ぐ	保守、点検を行う

【反省と今後の進め方】

	良かった点	悪かった点	今後の課題
テーマの選定	医薬品原価の中で大きな割合をしめる医薬品原価を抽出し、最大限の治療効果を発揮できる医薬品の選定と確保の重要性の再認識とジェネリック医薬品への肯定的なイメージの認知拡大に繋がった	---	適切な医療の提供に欠かせない医薬品の管理を、治療効果、コスト、流通状況を把握し、状況に合わせた変更を継続していく必要がある
現状の把握	採用医薬品のジェネリック化による医療原価削減効果は共有できた	---	医薬品の供給量不足による流通制限が悪化、長期化している
目標設定	目標設定の指標を検討し、達成度がわかりやすい目標設定を行う事が出来た	---	医薬品の供給量不足による流通制限が悪化、長期化により、目標を下回る可能性がある
要因解析	ジェネリック医薬品への否定的なイメージの要因解析により、肯定的なイメージの認知拡大へ繋がること出来た	環境整備に対する要因解析に時間を要した	ジェネリック医薬品への肯定的な認知拡大と共に、問題点の共有を継続する
対策の立案と実施	当該採用医薬品に対し、タイミングよく新規ジェネリック医薬品等が発売されたため、迅速に変更を行うことが出来た	環境整備の実施が後回しとなった	医療安全、治療効果、コスト、流通状況を把握し、状況に合わせた対策を継続する
効果の確認	目標設定時の予想以上の結果となった	ジェネリック化により扱い難い採用品名からの名称変更	採用医薬品の見直しだけではなく、治療効果とコストを意識した活動を継続する
標準化と管理の定着	病院運営に関わる、医薬品原価の内訳や推移を見える化し、他部署と共有することに繋がった	---	今回の活動だけでなく、今後も薬剤科発注の情報を他部署と共有を回り、Our Teamの活動へ繋げる